

平成 22 年 4 月 23 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19730176

研究課題名（和文）人的資本蓄積、技術革新の国際貿易との関連

研究課題名（英文）On the relationship among human capital accumulation, innovation and international trade

研究代表者

山本 和博（YAMAMOTO KAZUHIRO）

大阪大学・経済学研究科・准教授

研究者番号：10362633

研究分野：国際経済学、空間経済学

科研費の分科・細目：経済学・応用経済学

キーワード：人的資本、技術革新、国際貿易

1. 研究計画の概要

国際貿易の進展と共に、企業間の競争の激化、及び市場の拡大が起こっている。これらが労働者の人的資本蓄積行動、及び企業の技術革新行動に与える影響を理論的に分析する。

2. 研究の進捗状況

本研究を開始してから現在までの所、論文 6 点の執筆を終えている。その内の 2 点は既に英文学術雑誌への掲載済み、もしくは予定である。

2009 年度は後半から、空間経済学の動学モデルの研究を中心に進めている。その内一つは執筆の目処がつき、現在共著者が学会での報告を予定している。また、空間経済学における同質財部門の輸送費用の役割についての研究も進行中である。これは、空間経済学において非常に重要な地位を占める自国市場効果の理論的な再検証を目的としており、現在モデルの構築中である。さらに、独占的企業モデルに、寡占モデルを組み込んだ新たな競争環境下における空間経済学モデルの構築も行っている。

2009 年度に新たに執筆した論文

- (1) Market size and entrepreneurship
大都市における集積の経済と、多数の企業間の競争のどちらの効果が新たな起業に影響を与えているかを理論モデルを構築し、実証した。日本の都道府県データで検証した結果、東京、大阪等の大都市においては、集積の経済が強く働いていることが示された。
- (2) Market size, wage difference, and endogenous growth
2 国空間経済学の内生的成長モデルに、賃

金格差を導入した理論モデルを構築し、成長と集積の関係を検証している。輸送費用の低下に伴い、成長率は上昇、停滞、低下、再上昇という経過をたどることが示された。このことは、日本、アメリカ等の国が迎ってきた成長率の軌跡と一致する。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

（理由）

2009 年度は論文を 2 本完成させることができた。新たに実証研究を行ったことから考えると、順調な達成度だと言える。また、現在新たに 3 本の論文の執筆を行っているが、モデル構築の目処も立っており、順調に進行中であると考えている。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、研究報告を積極的に行い、そこでの議論を研究に反映させていく方針である。また、共同研究によって役割分担を適切に行った効率的な研究を行っていく予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

丸山亜希子 山本和博

“Variety expansion and fertility rates”

Journal of Population Economics 査読有

2010、23、55 - 71

〔学会発表〕（計 1 件）

佐藤泰裕、田淵隆俊、山本和博

Market size and entrepreneurship, 56th

Annual North American Meeting of
Regional Science Association International,
2009 年 11 月 19 日、Grand Hyatt, San
Francisco